

市民の安心・安全を守ります

平成29年度白石市消防団春季消防演習

4月9日、「平成29年度白石市消防団春季消防演習」を白石川緑地公園で行いました。演習には白石市消防団から580人が参加。部隊訓練や機械器具点検、ポンプ操作などを行い、日頃の練習の成果を披露しました。

山田市長は「今後も消防・防災組織との連携を強化し、災害に強い安全・安心なまちづくりを進めます」とあいさつ。佐久間富次消防団長は「歴史と伝統ある消防団を盛り上げていくため、新入団員や女性団員を確保するとともに、消防団としての自覚と誇りを忘れずに日々の活動に臨んでいただきたい」と団員に訓示しました。



▲白石川へ向けての一斉放水は圧巻！

山崎パニラ賞は誰の手に？

小学生がこけしの絵付け体験

4月14日、白石第一小学校でこけしの絵付けが行われました。この絵付け体験の授業は、弥治郎系こけし工人を講師に迎え、市内の小学校全校（6年生）を対象に実施。5月3日から5日まで開催される「第59回全日本こけしコンクール」の会場で展示されます。この日の授業で児童たちは、工人から顔の描き方やろくろを使った線の描き方などを教わり、思い思いのこけしを描いていました。参加した児童は「弥治郎こけしの特徴のベレー帽をロクロを使って描くのが難しかったですが、とても楽しかったです」と話してくれました。



▲こけし工人に髪飾りの描き方を教わる児童

手をつなぐ仲間や家族がいる

白石市手をつなぐ育成会 卒業を祝う会

3月19日、障がいをもつ子どもとその家族でつくる「白石市手をつなぐ育成会」（巨泉猛会長）の「卒業を祝う会」が大平公民館で開催されました。この春、小学校・中学校・支援学校高等部を卒業し、進学や就職する5人の児童・生徒に記念品を贈呈。両親からはわが子の成長記録をスライドで紹介したり、お祝いのメッセージが寄せられたりしました。巨泉会長は、「規則正しい生活を送り、新しい目標に向かって一歩一歩頑張ってください」とエールを送るとともに、子どもの成長を見守り、サポートしてきた家族をねぎらっていました。



▲卒業生を囲んで参加者全員で記念撮影

親子4代！ 消防団員として活躍

大平分団設立100年記念式典で感謝状贈呈

4月9日、白石市消防団大平分団は、大正7年の大平村消防組の発足から100年を迎え、白石温泉薬師の湯で記念式典を開催しました。式典では、山田市長から大平分団村上一男分団長へ感謝状を贈呈。また、発足から100年間親子4代に渡って絶え間なく消防団に入団し、活躍している角田家に対して感謝状が贈呈されました。感謝状を受け、市消防団角田和雄副団長は「消防団の活動が好きで、代々お世話になっている大平に恩返ししたいという気持ちで活動してきました。今後も体の続く限り頑張ります。」と目を輝かせて話していました。



▲山田市長と記念撮影する角田和雄さん(中央)と勇士さん(右)親子

未解明の歴史の研究に活用

歴史資料の複製品を贈呈

4月13日、市が所有する歴史資料を、富士ゼロックス株式会社が複製し、市役所で贈呈式を行いました。今回贈呈されたのは、片倉家とその家臣たちの知行高、指小旗などが克明に描かれた「白石片倉家臣據旗記」の複製本。富士ゼロックス株式会社の文化伝承活動の一環として無償で提供されました。同社の最新技術で原本の質感を忠実に再現。原本の代わりに研究用や教材での活用が可能という点が特徴。贈呈式で山田市長は「今後の研究が進むことを期待します。市民や観光客の目に触れられるよう活用していきたいです」と話していました。



▲複製本を手に握手する富士ゼロックス宮城(株)佐々木安社長(右)と山田市長

新体操競技の飛躍の年に！

キューブ新体操教室発表会

3月25日、「キューブ新体操教室発表会」がホワイトキューブで開催され、同教室で練習に励む選手やOB・OG、招待選手など約100人が参加し、日ごろの練習の成果を発表しました。この日は、名取高校と仙台大学の招待選手が迫力のある演技を披露。発表会に花を添えました。今年は、ホワイトキューブが開館20周年を迎えることを記念し、10月にベラルーシ新体操ナショナルチームを招聘。同会場で演技披露に加え、キューブ新体操教室との交流を行う予定です。本市の新体操競技のレベルアップがますます期待される年になりそうです。



▲中学生男女による集団演技。今年に賭ける決意を力強く表現しました

交通事故ゼロを目指して！

春の交通安全県民総ぐるみ運動出動式

4月6日から15日までの10日間、春の交通安全県民総ぐるみ運動が実施され、初日の6日、白石城本丸広場で出動式を行いました。白石城での開催は昨年秋に続いて2回目で、当日は白石警察署員や交通安全協会など関係者約120人が参加。出動式で白石警察署佐藤弘明署長は「交通事故から子どもたちを守るため、地域一丸となって取り組みます」とあいさつしました。

式の最後には「白石警察署甲冑隊」と参加者全員が「エイ、エイ、オー！」と力強い関の声を上げ、交通死亡事故ゼロを祈願しました。



▲安心・安全な白石を目指して、いざ出陣！

沢端川をきれいに！

沢端川周辺をボランティア清掃

3月26日、毎年恒例の「沢端川ボランティア清掃」が沢端川周辺で行われました。この活動は、毎年春と秋に白石城の内堀にあたる沢端川などの土砂上げと維持補修のために行っている「川干」に合わせて行われ、今回で26回目。市内の企業や団体・個人などのボランティア約360人が集まり、川底と川沿いのごみ拾いや周辺の雑草を刈り取りました。参加者は「清掃は大変ですが、まちをきれいにするのは気持ちが良いです」と話してくれました。清掃後は、協賛企業から豚汁や焼きおにぎりなどが振る舞われ、参加者の労をねぎらっていました。



▲毎回、多くの市内企業がボランティア清掃に参加しています